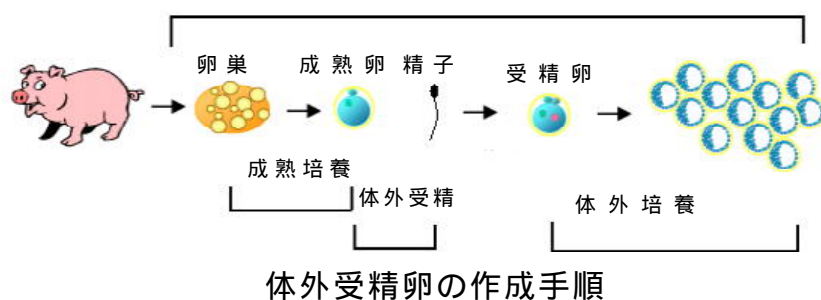


豚体外受精卵を用いた子豚生産技術

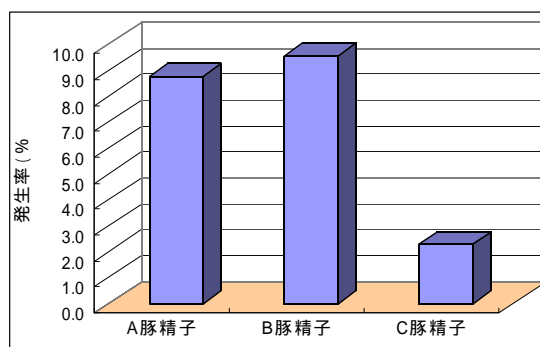
と殺された雌豚の卵巣から卵子を採取し、体外で受精卵を作成し代理母豚に移植することで、確実に子豚を得る技術を開発しました。

従来の技術では、体外受精卵の発生率が低く、産子を誕生させることができませんでした。しかし、受精能力が高く、受精卵の成長に適した精液を選別し、さらにその精子を薄めて用いることで、体外受精卵の発生率が5%から20%までアップしました。今までに5頭の代理母豚に移植したところ、全ての母豚が順調に妊娠し、分娩しました。

体外受精卵は、今までと畜場で廃棄されていた卵巣から作成できるので、安価で効率的に大量の受精卵を得ることができます。



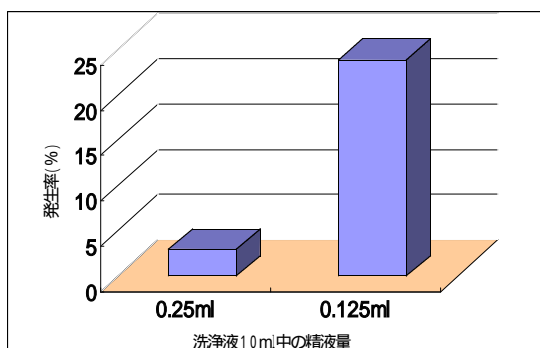
と殺された豚の卵巣から卵子を取り出し、成熟培養後、体外受精させて、さらに体外で6日間培養させることで、体外受精卵が完成します。



精子の種類による受精卵発生率の違い
受精前の精子の選別が重要なことが解りました。



体外で6日間培養した体外受精卵
直径は約0.2mmです。



精液量と受精卵発生率

精液量を半分に減らすことで、大幅に受精卵の発生率が上がりました。



体外受精卵から誕生した子豚

世界で5例目の成功例です。

(畜産研究所 家畜生産担当 TEL 048-536-0440)